

東京都立 多摩総合医療センター

地域がん診療連携拠点病院に認定されました

副院長 近藤 泰児

先般の〔東日本大震災〕でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また被災地域の日も早い復興をお祈りいたします。

今回の大震災では、都下でも電力供給不足とそれに伴う交通網の混乱、その後の計画停電、薬剤や診療材料の供給不足などにより、多くの医療機関が厳しい対応を迫られました。当院は建物、設備、院内ライフラインに損傷はありませんでしたが、節電、輪番停電の影響を受け、業務の縮小を余儀なくされました。一方、直後より東京DMAT、医療救護班、こころのケアチームの派遣をはじめとする被災地医療支援を開始し、福島原発事故被災地からの住民の放射能汚染測定なども行っています。これらの活動の一端を次回の医療連携懇話会で先生方にご報告する予定であります。

さて、多摩総合医療センターは、府中病院からの移転後1年2ヵ月余り経過し、ようやくハード面、ソフト面とも安定してきました。当院の3本柱である①救急医療 ②がん医療 ③総合周産期医療がいずれも強化され、充実した医療を提供できるようになっています。

今春には、地域がん診療連携拠点病院に認定されました（同一の2次医療圏内では杏林大学、武蔵野日赤に次ぎ3か所目の認定病院となります）。今後も、がんに対する集学的治療、化学療法、緩和ケアの充実を図ることはもちろんですが、併せてがん相談支援センターを設置し、がん診療全般にわたって広く情報収集・提供を行ってまいります。がん診療における病病連携・病診連携については、都下では最も早く地域連携クリニックパスに取り組み、昨年も説明会を開かせていただきました。今年度も先生方との協力体制を推進していく所存でありますので、ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

小児総合医療センターとの診療面での協力体制も徐々に整備されてまいりました。15歳以下の患者さんは原則として小児総合で診ることになっていますが、眼科、耳鼻科、歯科・口腔外科、整形外科の特殊な疾病については、専門家の配置状況に応じて、多摩総合のほうで診療を担当することもございます。

2月より多摩地区で初めて、母体救命対応総合周産期母子医療センターの指定を受けています。これは脳卒中や出血性ショックなど重症な疾患により緊急に母体救命処置を必要とする妊婦を輪番制(多摩総合は金曜日を担当)で必ず受け入れるシステムです。2008年の墨東病院の事例を契機に2009年より整備されたものです。当院の外科系各科、救急科、麻酔科などのバックアップ体制のもと、産婦人科と小児総合の新生児科との緊密な協力体制を敷いて、今後とも多摩地区でもっとも充実した周産期センターを目指してまいります。

以上、簡単ですが、新病院開設1年後の現状についてご報告をさせていただきます。まだまだ課題が山積しておりますが、先生方のご期待に沿えるよう職員一同、全力で取り組んで参りますので、ご理解とご協力を賜れば幸いに存じます。最後になりましたが、先生方のますますのご発展とご健勝をご祈念申し上げます。



【採用】平成23年4月1日付

呼吸器科医員	三倉 真一郎
呼吸器科医員	山本 佑樹
精神神経科医員	奥野 薫
精神神経科医員	細田 益宏
外科医員	大塚 英男
整形外科医員	内田 嘉雄
皮膚科医員	新井 崇
内科(非)	川堀 健一
内科(非)	小橋 健一郎
内科(非)	柴 久美子
内科(非)	中島 佑至
呼吸器科(非)	佐々木 茜
精神神経科(非)	熊倉 陽介
精神神経科(非)	澤田 欣吾
整形外科(非)	川口 航平
歯科口腔外科(非)	神山 勲
歯科口腔外科(非)	西堀 陽平
皮膚科(非)	若松 加菜恵

【昇格】平成23年4月1日付

内科医長	紀平 裕美
内科医長	櫻田 麻耶
精神神経科医長	安来 大輔
整形外科医長	牛田 正宏
眼科医長	井上 由貴
麻酔科医長	三角 素弘
麻酔科医長	渡邊 弘道

【転出】平成23年4月1日付

泌尿器科部長	押 正也
外科医員	吉野 美幸

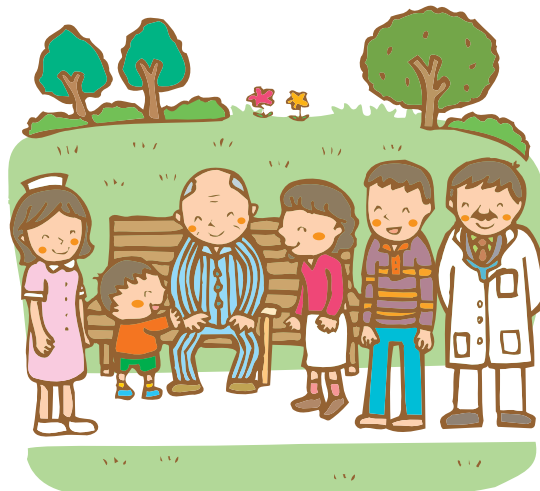
【退職】平成23年3月31日付

歯科口腔外科部長	大島 仁
内科医員	赤澤 政信
救急診療科(内科)医員	井上 大
呼吸器科医員	成澤 恵理子
呼吸器科医員	平尾 晋
循環器科医員	岡山 大
精神神経科医員	玉田 有
整形外科医員	山本 哲生
皮膚科医員	藤田 美穂
産婦人科医員	清水 美和
歯科口腔外科医員	塩見 周平
内科(非)	河崎 智樹
内科(非)	深見 裕一
内科(非)	松沢 優
精神神経科(非)	西岡 将基
整形外科(非)	中川 誉之
リウマチ膠原病科(非)	松浦 美喜雄
皮膚科(非)	柿沼 美和
産婦人科(非)	本多 泉

【採用】平成23年5月1日付

泌尿器科	又吉 幸秀
------	-------

外来担当医のみ掲載しております。(非)は非常勤医師



バリアフリーだけでは高齢者の骨折は予防できない

リハビリテーション科 医員 福島 斉

【症 例】 90歳女性 右大腿骨頸部骨折

【現病歴】 元来、屋内つままり歩きのADL。居間の中で移動しようとしてバランスをくずして転倒し、上記の診断で入院。

【既往歴】 高血圧 変形性膝関節症

【入院後経過】 入院後3日目で人工骨頭置換術施行。術後翌日より車椅子乗車開始。術後1週間で起立→歩行訓練開始、術後3週間で歩行器歩行にて転院となった。

【考察】 大腿骨頸部骨折は現在年間約16万人が発症している。要支援・要介護者数450万人のうち、転倒・骨折によるものは9.3%であるが、大腿骨頸部骨折の増加により入院費や手術時の内固定材料費、家屋改造費をはじめとする介護保険の諸経費などが諸財政を圧迫し、同時に身体および精神機能の低下など高齢者の生活の質（QOL）にも大きな影響を及ぼしている。長期臥床による廃用症候群（筋力低下、骨量減少、関節拘縮、尿路感染、肺炎、褥創、認知症）を予防するためには早期に手術（人工骨頭置換術、内固定）を行い離床をすすめることが欠かせない。当院に3年間で入院した大腿骨頸部骨折は306例であり、その88.9%にあたる272例が手術を行っていた。大腿骨頸部骨折の90%以上は転倒により発生するが、転倒の原因として内的要因と外的要因がある。前者は筋骨格系、神経系、循環器系、視覚系などの身体機能や加齢、薬物内服があり、後者は段差、路面状態、履物、敷物などの物的環境がある。転倒の原因は「姿勢をくずす」をはじめとした内的要因が140例（45.8%）、「障害物、路面状態や接触」など外的要因が127例（41.5%）、不明が39例（12.7%）であり、年齢層が高くなるほど内的要因の割合が増加した（図1）。本症例でも明らかな障害物がないにもかかわらず転倒を起こしており、加齢による筋力やバランス能力の低下もしくは痛い膝をかばったなどの内的要因が考えられた。転倒場所では屋内転倒が202例（66.0%）を占め、中でも居間、廊下、台所など障害物が少ない場所での転倒が屋内転倒の60.9%を占めた。驚くべきことに危険な場所の代表とされる風呂場での転倒は1例、階段では8例に過ぎなかった。また高齢になるほど屋内での転倒が増加した（図2）。2030年には大腿骨頸部骨折発症数は年間約25万人に増加し、特に85歳以上の超高齢者で激増すると予測されている。高齢になるほど屋内の安全な場所での内的要因による転倒が多くなることから、「転ばぬ先の杖」の役割としてバリアフリーなどの家屋整備のみに偏らず積極的な運動療法の介入が必要とされる。



症例レントゲン

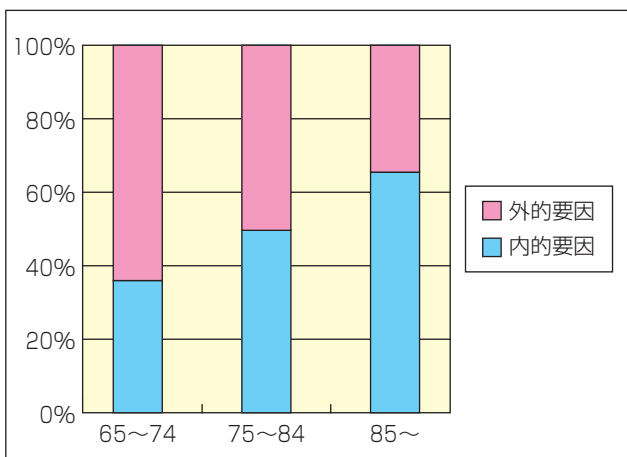


図1 年齢層と転倒要因

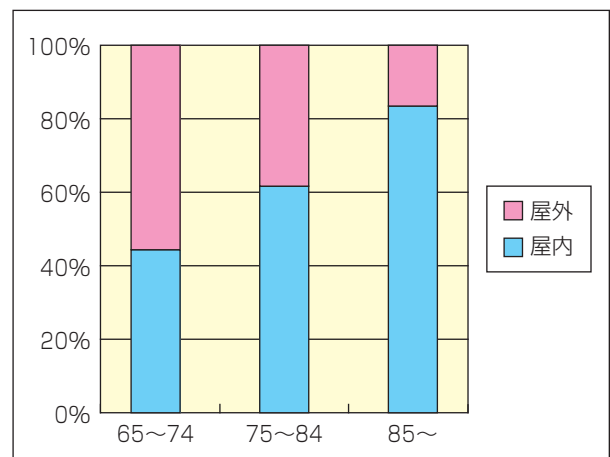


図2 年齢層と転倒場所



●● 医療連携臨床会懇話会 開催報告・次回ご案内 ●●

恒例となっております医療連携臨床懇話会を、下記の通り開催いたしました。

- 第69回 平成23年3月3日 19:00~21:00 開催

「虚血性心疾患のカテーテル治療」 循環器内科医長 田中 博之
「東京都における重症熱傷救急体制と最近の治療法」 形成外科部長 樋口 良平

今回も40名前後の先生方にお越しいただき、盛況のなか終わることができました。お忙しい中おいでいただきありがとうございました。平成23年7月7日（木）には、第70回の懇話会の開催を予定しております。詳細が決まり次第あらためてご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

医療連携臨床懇話会：平成23年7月7日（木）午後19:00~を予定しております。
※詳細が決まり次第、別途ご案内いたします。

●● 各種講習会・勉強会のご案内（患者さん向け） ●●

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会（会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト）

- 「糖尿病網膜症」「点眼薬を正しく使いましょう」「外食・宅配等の利用方法」
日時：平成23年6月15日（水） 午後2時から午後4時
- 「糖尿病腎症」「透析療法の実際」「腎症予防にむけての食事」
日時：平成23年7月13日（水） 午後2時から午後4時
- 「糖尿病のセルフコントロール」「糖尿病内服薬の飲み方」「糖尿病手帳の使い方」
日時：平成23年8月17日（水） 午後2時から午後4時

※地震等の理由により、予定が変更になる場合があります。
院内の掲示、ホームページ等でご確認ください。

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係（清水・戸田 内線2171）まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ずご一報ください。

可能な限り専門診療科をご指定の上、
担当医にご連絡ください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111（代表）
ホームページ <http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/>

